

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(改訂2019年版、名古屋中規模建築物環境性能評価マニュアル2018) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)久屋大通公園前計画 新築工事	階数	地上18F
建設地	名古屋市中区栄五丁目201番1、201番5	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	67 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2019年1月31日
敷地面積	780 m ²	作成者	
建築面積	595 m ²	確認日	2019年1月31日
延床面積	8,020 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.1 ★★★★★★☆☆☆☆ S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境品質 Q (0 to 100) vs 環境負荷 L (0 to 100)	★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆ 30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 5 Q1 室内環境 3 Q3 室外環境(敷地内) 2 LR1 エネルギー 1 LR3 敷地外環境 1 LR2 資源・マテリアル 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.9 LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合		
基壇部のオフィス階とマンション階の建物ボリュームを分節し、マンション階の上層部分をセットバックさせることで建物の圧迫感を軽減している。また、下層部においても外壁に大きく掘り込みをつくることで周囲の環境を受け入れるよう計画した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
敷地が久屋大通に近接することから遮音性の高いサッシを採用し、Low-E複層ガラスを採用することで開口部に高い断熱性能の住環境を確保した。	日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保し、建物の長期利用に対応した。階高を3.0m以上確保し、居住性を確保した。	道路に面した場所を中心に緑地を確保し、都市景観に配慮した。管理動線を設けることで、植栽の管理手入れが容易に行えるようにした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮性能は日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たし、省エネルギー性にも配慮した。	節水コマや節水型便器の採用により環境負荷低減を行った。	ディスプレイを設け、生ごみの軽減を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)久屋大通公園前計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。